

第15回高炉内反応部会 開催日：3月26～27日。出席者：大森部会長，ほか45名。

開催地：蔵王ハイツ

今回は現場製鉄技術者の出席を得て，製鉄研究の現状に関し幅広い討議を行った。

.....

第4回融体精錬反応部会 開催日：4月27日。出席者：森一美部会長，ほか26名。

1. 研究発表

(1) $\text{Mn}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系スラグ-炭素飽和溶鉄間の硫黄の分配

(2) Na_2CO_3 による溶鉄の精錬について

(3) ソーダ灰溶鉄予備処理におけるバナジウムの挙動について

(4) 石灰系溶鉄脱リン・スラグの最適組成の基礎検討

(5) $2\text{CaO}\cdot\text{SiO}_2$ およびCaO系フラックスによる溶鉄脱燐法の検討

(6) CaC_2 による炭素鋼の不純物除去

(7) 石灰同時吹き込みにおける粉体粒度の影響に関する小実験

2. 幹事会 部会終了後に幹事会を開き，今後の研究方針につき検討し，反応のほかプロセス工学的問題も取り上げていくことにした。

.....

第4回連続鑄造における力学的挙動部会

開催日：6月9日。出席者：森部会長，ほか27名。

1. 特別講演「連続鑄造機から見た鑄片の割れ対策」

住友重機 長岡連続鑄造機部長

2. 研究発表 3件の発表・報告があつた。

~~~~~  
書 評  
~~~~~

塑性加工の基礎

Elements of Metalworking Theory : Geoffrey W. Rowe

東京大学工学部教授 宮川 松男監訳

〃 助手 小豆島 明訳

丸善(株) 定価 2,400 円

原著は英国バーミンガム大学教授として，金属塑性加工の研究に大きな業績を挙げている Rowe 博士によつて英国の大学および工業専門学校の教科書用に書かれたものであり，今回，東京大学の宮川教授および小豆島博士によつて翻訳されたものである。実は小生の研究室においても，大へん適当な教科書として，数年前から学生の輪講のために利用しており，東京大学においても同様に使用され，卒業研究に配属された4年次学生の輪講に役立てられている。半年間程度の間，比較的容易に理論の概要を理解でき，卒業研究の進行のためにも好ましく，また，社会に出るからの効果も期待されている。その意味から東京大学の両先生によつて翻訳されたことは，まことに喜ばしいことである。

内容としては

1. 材料特性の決め方
2. 組合せ応力における降伏
3. 引抜き荷重および鍛造荷重を応力分布から決める方法
4. 圧延荷重と動力の決定
5. 基礎すべり線場理論
6. すべり線場理論の応用：鍛造，引抜き，押し出し
7. 上界法
8. 実験室で行えるいくつかの研究

となつており，記述は必要な事項を重点的にしてあり，読んで理解しやすくなつている。なお，演習問題は豊富であり，また，それぞれに丁寧な解説がついているのは独学的に勉強する人にとつても大へん便利である。金属，鉄鋼の加工関係の技術者，研究者，とくに若い人々に推薦したい書物の一つである。

(加藤健三)